

# 埼教組賃金闘争NEWS

発行者  
埼玉県教職員組合発行  
責任者  
埼教組 金井宏伸  
〒330-0063  
埼玉県さいたま市浦和  
区高砂3-12-24  
埼玉教育会館5階  
TEL：048-824-2511

## 第1回 埼教連交渉 県教委は現場の切実な要求の実現を

### 先生を増やして 代替者の完全配置も早急に

埼教組、埼玉高教で構成する埼教連（埼玉県教職員組合連合）は10月1日（金）、「2021年度賃金・労働時間等に関する重点要求書」にもとづく第1回交渉を行いました。

地公労交渉から切り分けた教育に関わる賃金・労働時間等の要求項目について、現場からたくさんの方が寄せられました。県教委から大きな前進回答といえる回答はありませんでした。

#### 深刻な未配置・未補充問題 今年こそは改善を

新自由主義的な政策により、公務・公共サービスを縮小し続けてきたことが、パンデミックや自然災害などの緊急事態に、児童生徒のいのちと安全を十分に守り対処しきれないことを明らかとしただけでなく、今まで以上の長時間過密労働につながる大きなしわ寄せを、現場の教職員にもたらしています。

今年度の県人事委員会報告の「人事管理に関する報告（意見）」では、こうし



#### コロナ禍でのオンライン化 埼教連と引き続き協議を

ちろん、その場しのぎの対策である会計年度任用職員の配置すらも十分に行われていない現状が明らかとなりました。

た状況に対し、教職員においては「働き方改革を進める上では、定数の充足と必要な代替職員の確保が前提」とし定数増、未配置・未補充の根絶について触れています。県当局はコロナ禍の今だからこそ、この問題に正面から向き合い、早急に改善すべきです。

今回の第1回交渉において、県教委は深刻な未配置・未補充に対し、今年も毎年言い続けている「あつてはならない重大な事態であると認識している」「学校教育に支障が生じていること

どもたちのケアも養護教員の仕事。養護教員も休めない。中でも妊娠養護教諭には配慮を。妊娠養護教諭に対して通年での母体保護加配をつけていただきたい。」

ればならず、授業が思うように進まないという発言もありました。

#### 参加者の発言

「1日6回、授業の間や放課後に消毒作業、休憩なんて取れない。オンライン授業、欠員の穴埋めは現場：仕事は増えているのに一時金削減は許せない！」

「養護教員にのしかかるコロナ禍での不安を抱える子



た6回の研修のうち5回がオンラインで行われた。講義と講義の間の休憩が長く、内容と実施方法を精査すれば研修を更に1日縮減できるのではないか。」その他、割り振り変更や高校の観点別評価に関わる負担軽減などについて発言が続きました。

#### 労働条件改善のために あなたも組合に加入しよう

学校の教育力を高め、山積する教育課題の解消をすすめるには、すべての教職

交渉参加者からは、待つても待っても代替者が配置されない状況、産休に入っている女性教職員が研修の講師のために出勤しているという現場実態も発言にありました。当局責任であったはならない未配置・未補充の問題を今年こそ改善させていく具体的な施策と実行を県教委は強力で押し進めるべきです。

新型コロナウイルス感染症拡大の中、新たな負担と問題を生み出しているのが研修や授業のオンライン化です。教育のICT化が現場実態を無視した形で拙速に押し進められている中、教育をめぐる課題はますます困難さを増しています。年次研修では集合型では

員が安心して職務に専念できることが極めて重要であり、そのためには、深刻な生活実態・労働実態を踏まえた教職員の賃金と労働条件の改善が不可欠です。

教職員の「多忙化」解消・負担軽減のためには、必要な仕事は何であり、そうでないものは何かをしっかりと話し合った上で、教職員がその専門性を発揮するため一人ひとりが担う仕事の絶対量を削減することが必要です。現場の実情に基づいた教職員の合意形成を進めることが学校の教育力を高めます。もちろん教育予算を増やし、教職員を大幅に増やすことなしには「多忙化」解消・負担軽減は進みません。

なく、オンラインによる研修の形態が進みつつあります。研修地への移動という点において負担は軽減される一方、オンラインでの研修は在籍校からの参加となることから、研修の合間の時間に通常業務が入り込んだり、オンデマンド型の動画視聴による研修では勤務時間外や週休日に研修課題を実施していたりする受講者の実態があります。

急遽現場に求められたオンライン授業では様々な困難や問題が生じています。ある市町村では選択制でのオンライン授業参加を取っているため、教室で授業を受けている児童の対応に合わせ、オンラインで参加している児童の対応をしなけ